

AUTOBACS SUPER GT ROUND 2

FAV HOTEL FUJI GT 450km RACE

RACE REPORT

愛知校 栃木校 横浜校 京都校担当



この活動は多くのスポンサー様に支援されています。

NISSAN REALIZE GROUP YOKOHAMA ZIPP WOLFE LUD TRUCKS Logisnext 日産車体 株式会社ゼロ 日産モータースポーツ&カスタマイズ
ALTA ROCK PAINT PREMIER RACING SYRUS-DRIFT Evolution TOPPAN NOK NTK M&T DÖFF KAWMOTO
SUNTORY PUMA 日産東京 日産プリンス栃木 日産プリンス埼玉 埼玉日産 神奈川日産 日産プリンス神奈川 岐阜日産
日産プリンス三重 愛知日産 日産プリンス名古屋 日産大阪 兵庫日産 愛媛日産 日産プリンス福岡 日産プリンス秋田 長野日産 松本日産
千葉日産 日産プリンス千葉 日産自動車販売 浜松日産 京都日産 日産サテリオ佐賀 日産プリンス長崎 青森日産 日産サテリオ弘前 岩手日産
日産プリンス岩手 日産プリンス宮城 栃木日産 新潟日産 甲斐日産 日産サテリオ千葉 日産サテリオ浦南 石川日産 福井日産 日産プリンス静岡
三重日産 和歌山日産 岡山日産 日産プリンス広島 日産プリンス山口 福岡日産 日産プリンス大分 宮崎日産 鹿児島日産 *Abaco*

予選・決勝のレース結果

5月3日 予選【天気:晴 気温:19℃ 路面温度:21℃】

午後3時、オリベイラ選手がドライバーで、Q1のAグループがスタートしました。

56号車はベストタイム1'36.315をマークし、8位で終え、Q2に進出しました。

午後3時53分、藤波選手がドライバーでQ2がスタートしました。56号車はベストタイム1'36.097をマークし、決勝は14番手からのスタートとなりました。



5月4日 決勝【天気:晴 気温:22℃ 路面温度:35℃】

午後2時36分、オリベイラ選手がドライバーで決勝がスタートしました。

レース序盤、60kgのサクセスウェイトを感じさせないオリベイラ選手の走りで、徐々に順位を上げ、24ラップ目に9位に浮上しました。

レース中盤、27ラップ目でピットに入り、藤波選手に交代。メカニックの素早く正確なタイヤ交換作業や燃料補給を終え、ピットを後にしました。

レース中盤から終盤にかけて、コース上で度重なるアクシデントがありましたが、藤波選手は、それに動じず走り続け、3:46'26.553でチェッカーを通過。見事7位入賞を果たしました。



販売会社テクニカルスタッフインタビュー

日産自動車大学校の卒業生でもある野代谷さんとファビオさんは次のように話して下さいました。

日産自動車販売株式会社 野代谷 拓さん



「レースマシンとの距離が近くなりました」

学生スタッフとして「**NISSAN MECHANIC CHALLENGE**」に参加していた時より、アライメント調整など、専門技術が要求される整備にも携わることができ、レースマシンに触れる機会が増えました。

自分なりの目標を持ってこの活動に参加でき、整備士人生がより一層楽しくなったので、学生の皆さんには、チャレンジ精神を持ち、色々なことに率先して参加して欲しいです。

日産プリンス三重販売株式会社 メザ・ファビオさん



「責任を強く感じながらも楽しく活動できました」

チームメカニックの方々と協力して、調整を重ねながら、作業を行って来ました。精密なこのレースマシンに触れ、人の命に関わる作業をしてきて、ひとつひとつの作業に責任を強く感じました。

この活動の中で多くの学びがあり、整備技術が向上する実感もありました。自身の成長を感じることができ、楽しんで活動できることが、この活動の魅力の1つなのだと思います。

諸事情により、販売会社テクニカルスタッフの方全員に対面インタビューすることができませんでした。そのため、紙面でのインタビューで回答をいただきましたので紹介致します。

「普段の整備と近いところがありました」

アライメント調整等、普段の整備でも行っているところがありました。今回の活動を通して、普段の整備では、調整時の精度に関して今まで以上に気を配って作業を行っていきたいと思います。

日産プリンス静岡販売株式会社 小山 恵輔さん

「整備の基本を再認識できる活動となりました」

今回の活動で、タイヤ交換の際、周囲に気をつけながら素早く脱着するコツを学べたり、レース車両のアライメント調整、外装部品の脱着など、大変貴重な経験ができました。

今回の活動を通して、通常業務内の整備をする際の基本を再認識すると共に、効率的な作業について常に考えながら業務にあたっていきたいと思います。

甲斐日産自動車株式会社 鈴木 賢一さん

「レースならではの知識を身につけたいため、参加しました」

レースを全く知らないまま、参加してしまいました。ルールや、仕事内容がわかるだけでもとても興味深く、楽しく活動ができました。レースでは、車両の調整をするときに、コマ単位で調整を行うので、普段の整備でも、数値にこだわる整備士になりたいと思います。学生には、なんでも深掘りして学んで欲しいと思います。

日産プリンス神奈川販売株式会社 高橋 拓海さん

「自分に自信がつく活動となりました」

今回の活動に参加する前は、とても不安でしたが、活動を通して、自分に自信をつけることができました。今回の活動で、効率良く安全に作業することを学ぶことができたので、普段の整備でも活かしていきたいと思います。

松本日産自動車株式会社 守屋 恒平さん

「車に興味を持ったきっかけである SUPER GT に参加でき、貴重な経験ができました」

この活動に参加してみて、より多くの方に参加してもらいたいと思いました。この活動を通して、作業する上での心構えや姿勢を学ぶことができたので、普段の整備で活かしていきたいと思います。学生には、ひとつひとつの勉強をしっかりとこなしておくのと良いと思います。

神奈川日産自動車株式会社 渡邊 一帆さん

学生リーダーインタビュー

横浜校リーダー 安藤 貞利



「大人数で活動する際のノウハウを学びました」

今回は、4校合同での活動だったというのもあり、最初は上手く連携が取れず、苦戦しました。どうすれば良いか自分なりに考え、他の学生に積極的にコミュニケーションを取ったり、自分が伝えたいことは相手に伝えつつ、相手の意見もしっかりと汲み取りながら活動に反映させたりして、上手くまとめることができました。

今回の活動で学んだことは、コミュニケーションの重要性です。4校全員でスムーズに活動するには、綿密なコミュニケーションが必要となり、なくてはならないものだと実感しました。



ドライバーサポートインタビュー

愛知校 日比 彩詠



「学生として、さまざまな事を吸収できた活動でした」

私は、ドライバーサポートという役割を通して、レーサーと接し、レースの緊張感を知ることができました。

レースには、さまざまな方向からの支援があって、それが全て整うことが勝利への鍵になり、同時にそのひとつひとつに丁寧に目を向けることが大事だという事を感じました。



テクニカルマネージャーインタビュー

栃木校 大澤 謙世



「レースの最前線に立てることができました」

この活動で、緊張を感じながら、プロの仕事を間近で見ることができたり、ドライバーだけでなく、監督やメカニックの方々など、チーム全体が本気でレースに取り組む姿勢を見ることができました。

自分がピット内で作業するときには、メカニックやテクニカルスタッフの方々の作業に迷惑をかけないように周りに気を配りながら作業を行いました。



京都校 四方 蓮



「普段とは違う景色や、考え方を経験できました」

初めてこの活動に参加しましたが、レースマシンに接するなど滅多に経験できない作業が自分の貴重な財産となりました。また、積極的に作業に参加するために、状況を見て考え、予測して行動に移すことが大変でした。

この活動で学んだことを活かし、次に繋げていきたいと思います。



ゲストエリア学生インタビュー

京都校 濱本 祐太



「岡山戦で学んだことを今回活かすことができました」

今回は、第1戦の岡山戦に続き、2度目の参加でした。前回の岡山戦では、ピットマネージャーとして参加し、そこでチームワークを学べました。今回の富士戦は、ゲストエリアでの活動でしたが、前回学んだチームワークを活かしながら初対面の学生とも打ち解けあい、良い活動ができました。この活動は、レースの知識がなくても参加でき、遊びに行くような気持ちではなく、チームの一員として行くという気持ちで行くと、必ず成長して学校に帰って来れる活動だと思います。



栃木校 榎田 悠生



「自分の為になる活動を行えました」

今回、初めてこの活動に参加しました。最初は色々と不安で緊張しましたが、学生同士で良いコミュニケーションを取れたので緊張がほぐれました。

また、接客の際には、日産販売株式会社の方におもてなしをする機会があり、緊張感を持っておもてなしをすることができました。次も機会があったら参加したいと思いました。

「4校合同で協力して成功させた富士戦」

今回は、4校(愛知・栃木・横浜・京都)で人数が多い中での活動となりました。

最初は、お互いに遠慮しあってぎこちない場面もありましたが、リーダーを中心に学生同士で綿密なコミュニケーションを取り合いながら、お互いに協力し合い、仕事を行っていました。また、今回は初参加の学生も多く、この環境に慣れない中での活動となりましたが、先輩のスタッフが丁寧に作業を教えている姿も見受けられ、雰囲気の良い活動になったのではないかと思います。

活動を振り返って

今回の活動も、前回の岡山戦と同様で、コロナ禍での活動となり、いろいろな場面で活動が制限されました。その中で学生達はチーム一丸になり、自分達が最大限できることを模索し、お互いに協力しあって活動を行ってきました。この経験がそのまま社会に出て活かされることでしょうか。そして、学生にとってこの活動を通して、なんらかの刺激になったことは間違いありません。この活動は、KONDO RACING のみなさんをはじめ、たくさんの方々を支えられながら活動しています。これからも感謝の気持ちを忘れずに、この活動を続けていきたいと思っています。

作成 日産栃木自動車大学校 日産京都自動車大学校
成田 颯 湊上 泰知 森岡 海大

